

Tokyo Kasei Press

学校法人渡辺学園 広報誌 なでしこ

VOL.
91
2022.1

- 02 2022年 年頭所感 04 卒業学年の学生紹介
08 フラワーサイクリストとして活躍する卒業生起業家

- 12 グローバル教育センター
2つの学生団体発足
14 附属女子中学校・高等学校
16 ニュース & トピックス



1953 東京家政大学 児童栄養科・被服科
※染色の授業風景

140th Anniversary



2021 東京家政大学 家政学部 造形表現学科
※染色の授業風景

令和四年 年頭所感

「四大改革」の達成度を高める

学校法人渡辺学園理事長 菅谷 定彦

一昨年春からの新型コロナウイルス大流行でわが国がピークに達したのは、東京パラリンピック開催直前の昨年8月下旬。全国の感染者は8月20日に25、851人、東京都は8月13日に5、908人を記録した。

ところが9月初めから感染者数が劇的に減少に転じ、ピーク3ヶ月後の11月中旬には週平均が全国で200人、東京で20人と最悪期の各0.8%、0.4%まで急改善した。死者数の累計も11月中旬で18、300人とワクチン接種をわが国に先立って開始した米国の76万人、英国14万人に比べ桁違いに少ない。

最大の原因は2021年2月に医療従事者、4月から高齢者を対象に始まったワクチン接種

に国民が積極的に取り組んだことである。加えてマスク、手洗い、うがい、アルコール消毒、三密回避などを忠実に実行した健全な国民性もプラスに傾いた。渡辺学園もオンライン授業開始、学生・生徒への支援金付与、検温体制整備、学内ワクチン接種とスピーディーに手を打ち、感染者を最小限に食い止めた。

11月下旬に変異株のオミクロンが出現するなど油断は禁物だが、「コロナ危機は去りつつある」との見方は間違っていないと思う。

6年前私が理事長就任直後にスタートした「あいさつ運動」を皮切りに、赤字続きの中高再建策をはじめとする財政、教育、意識の三大改革に着手。コロナ禍の昨年5月には全部門で予算

の適正な立案、実行を柱とする構造改革を実行してきた。コロナ鎮静下の学園創立141年の今年、これら四大改革の達成度を常務理事会、理事会メンバーと昨春就任した井上俊哉学長、大澤力附属女子中学校・高等学校統括責任者兼高校校長とが一体になって一段と高めたい。

新型コロナウイルス感染拡大下に始めたオンライン授業が一年半以上経過した今、学生・生徒そして教職員のDX（デジタルトランスフォーメーション）レベルは着実に向上した。東京オリンピック・パラリンピック施設投資による建設コスト上昇と新型コロナウイルス感染の拡大で3年延長した十条門に近い「40周年記念棟」建設は現在急ピッチで内容を煮詰めているが、世評の高い博物館を移行すると共にコンピュータシステム管理センターを移転、学生のDX強化に資する整備も新設、情報に強い学園をつくりあげる。あわせて国連の「SDGs」（持続可能な開発目標）の大きな柱であるクリーンエネルギー達成の一助として太陽光発電を屋上などに配する計画である。



協同が未来を拓く

東京家政大学・東京家政大学短期大学部学長 井上 俊哉

一昨年（令和2年）の春先から猛威を振るい、私たちを散々振り回した新型コロナウイルスによる感染症も、昨年9月以降、新規感染者が急減し、ようやく収まる気配を見せています。学生たちが対面を伴う交流、活動を積極的に行えるよう、このまま「ただの風邪」になっ

て、東京家政大学が新制大学として発足した1949年から今年で73年になります。渡邊辰五郎先生が和洋裁縫伝習所を開いた1881年から新制大学発足までの69年をすでに超えており、家政学部生活科学科児童栄養専攻、被服科学科

から出発した東京家政大学は学部・学科を増やし、収容定員6、000を優に超える大学・短大となりました。今年4月には栄養学科、管理栄養学科からなる栄養学部も発足します。

このように戦後間もなく大学が発足してから今日に至るまで、東京家政大学は規模を拡大し発展してきました。しかし、人口が増え続けた時代、高度成長の時代はとうに終わり、いまは、18歳人口の減少に歯止めがかからず、伸び続けていた大学進学率も頭打ちになり、日本社会全体が大きな転換を迫られています。社会の変化に伴い大学に求められるもの

迎春



笑門来福

えっ意外、あ〜納得、トップたちの干支は・・・

井上学長…**亥**年生まれの人、興味のあることに一心不乱に取り組み、わき目もふらずに突き進みます。その反動で落ち込んだ時の意気消沈ぶりに周囲が心配することも。清廉潔白を好み誠実な性格で、正しいことに対する意識を人一倍強く持ち、正義感や倫理観を大切にしています。

菅谷理事長…**卯**年生まれの人、義理堅い性格の持ち主で友達が困っているのを黙って見過ごせないタイプ。寂しがりやで相手からの返信が遅いと不安になりがちです。負けん気が強いという特徴から内心では負けたくないという気持ちが強いので、勉強やスポーツの練習をきっちりやります。

参考：社会人の教科書 <https://business-textbooks.com/>

電力や再生可能エネルギーで 社会基盤を支えるプロの技術者に



家政学部環境教育学科4年
関根 彩乃さん

落ち着きある温かな雰囲気を持ち主でありながら、大学生活の4年間を多方面でアクティブに過ごしてきた関根さん。環境教育学科での学び、東京2020オリンピック・パラリンピックのボランティア参加、自身のキャリアデザインなどについて聞きました。

大学での学修 真摯に課題と向き合い 3年連続特待生

高校では生物部に所属、環境問題やエネルギー問題に興味があったことから環境教育学科へ入学した関根さん。大学の授業は「環境衛生学実験」がもっとも記憶に残っているそうで、「自宅のお風呂場や鏡から採取した微生物を培養して、どんな微生物なのかを突き止める実験内容でした。わたしたちの日常生活と微生物が密接に関わっていることが新鮮で、この授業を受けてからは、この食品は発酵食品だからどんな微生物が関係しているんだろうというように視野が広がっていくのも面白かったです」

このような実験・実習が多いカリキュラムであるところが特長の環境教育学科ですが、「文理融合」であることもこの学科を選んだ理由でした。環境の理系と教育の文系、双方から学べる学科なので、将来の進路を絞らずに柔軟な選択肢を持って考えることができる点がわたしには合っていました」

関根さんは大学2～4年生の3年連続で在学生特待生を受賞。学修面でのように臨んできたのかを聞いたところ、「出された課題に真摯に向き合い、課題の意味や目的を正しく理解することを大事にできていました。自分がそれらを十分に理解できていな



い場合には、先生にお聞きし確かめてから課題に取り掛かりました。また、図書館で課題の周辺情報を調べることにも多くの時間を費やしました」と振り返ります。課題の意味や目的をクリアにすることでやるべきことが順序立てて整理され、より幅広い情報を収集したり自分なりの考察を深めたり、課題に取り組みパワーが満ち溢れてきます。大学で求められる自主的な学びの根本を関根さんの言葉は教えてくれているのではないのでしょうか。

学内の課外活動 学生CREED、 ボランティア、サークル

関根さんは課外活動も充実した色濃い4年間を送りました。大学1年生から「学生CREED」という学生が中心となって「新入生歓迎交流会」や「学生と教職員の交流会」など様々なイベントを企画し運営する活動に参加。大学2年生の時には同種団体で活動する学生が全国から集まる学生FDサミットに参加するため北海道まで足を運びました。「自分たちの大学生活をどう捉え、どう変えていきたいか、そのために何をすればいいかを話し合いました。そこで知っていた他大学の取り組みは家政大とは全く異なりとても新鮮でした。その後に学生CREED主催で実施した学生アンケート企画は、学生FDサミットで得た情報を参考にアレンジして想起した活動です」

学生CREEDの活動以外にも、大学1・

2年生で所属していた学内公認サークル「ライオンサイエンス研究会」では工場見学を重ね、サイエンス分野への好奇心をフルに満たした関根さん。さらに、ヒューマンライフ支援センターが実施するボランティアにも積極的に参加し、高齢者向けフレイル[※]測定のボランティアが特に印象的だったと言います。「このボランティアで初めてフレイルという言葉を知りました。これが今執筆している健康がテーマである卒業論文にも通じる概念で、何事もいつかどこかで繋がるものなんですね」

ひとつの活動から得られる体験や知識、そしてそれを起点としてさらに広がる好奇心。きっかけの種は至る所にあり、その種を掘んで経験を刈り取ることで、学生生活が秘める成長の可能性はまさに無限、関根さんが歩みを進めてきた道にはそう思わせてくれる確かな足跡を見ることが出来ます。

（*）「フレイル」とは日本老年医学会が提唱した用語で、加齢に伴う予備能力低下のためストレスに対する回復力が低下した状態のこと

東京2020 オリンピック・パラリンピック IOC委員の アテンドを担う大役も

2021年に開催された東京2020オリンピック・パラリンピック、関根さんは開催前の準備を担うパイオニアボランティア、大会期間中に活動する大会ボランティアとして参加する機会に恵まれました。前者の活動では組織委員会の国際局で大会ボランティアが活動中に持ち歩くマニュアル作成に携わりました。後者の活動ではオリ



就職活動 1年生夏から インターンに積極参加

大学入学当初から、人々が安心して幸せな暮らしを送れるように社会生活の基盤を支える仕事をキャリアプランとして思い描き、公務員と民間企業の両方を視野に入れて考えてきました。そして、関根さんは早期からそれらの職場を見ることが出来るインターンシップを活用、大学1年生の夏に内閣人事局主催「女子学生霞が関インター

ンシップ」へ参加、「1年生でインターンに参加するのは早すぎるのかもしれないと迷いもありましたが、キャリア支援課の方に背中を押してもらって応募しました。農林水産省、特許庁、内閣府をまわりました。他の参加者は上級生が大半で、就活の話を聞くなど参考になりました」

続けて1年生の冬には民間会社のインターンにも複数参加、そこで出会った東電タウンプランニング株式会社（以下、東電タウンプランニング）がその3年後には関根さんの就職内定先となります。インターンで初めてこの会社を知ったという関根さん、インターン中には既に将来この会社で働きたいと思ったと言います。「社会基盤を支えるという自分の将来イメージと東電タウンプランニングのまちづくりに貢献する事業が同じ方向性であることと、高校のときに砂漠化を研究したことで関心を持った気候変動やエネルギー問題に資する再生可能エネルギーを扱っていることに心が動きました」さらに、インターンシップに参加したからこそ知ることができた企業

の魅力も教えてくれました。「働いている社員の方々と話す自分の仕事に誇りを持っていることがひしひしと伝わってきました。また、技術職が使う専用ソフトを操作する際には丁寧に教えてくださったり、社員の方が自分で電柱の配電設計をした地域一帯の写真を見せてくれた時の誇らしい表情だったり、それらに触れてこの会社で働きたいの思いが募りました」

就職活動では東電タウンプランニングに照準を絞って活動し、大学3年生の3月には内定定の通知を手に行うことができました。面接等の自己PRでは「学生CREEDでは同世代と一緒に活動、東京2020大会のボランティアでは年上の方と協働した

経験を踏まえ、色々な属性や幅広い年齢層の方とも円滑なコミュニケーションができますとアピールしました」と少し気恥ずかしそうに教えてくれました。

卒業後の将来 技術職を極め、 再生可能エネルギーも

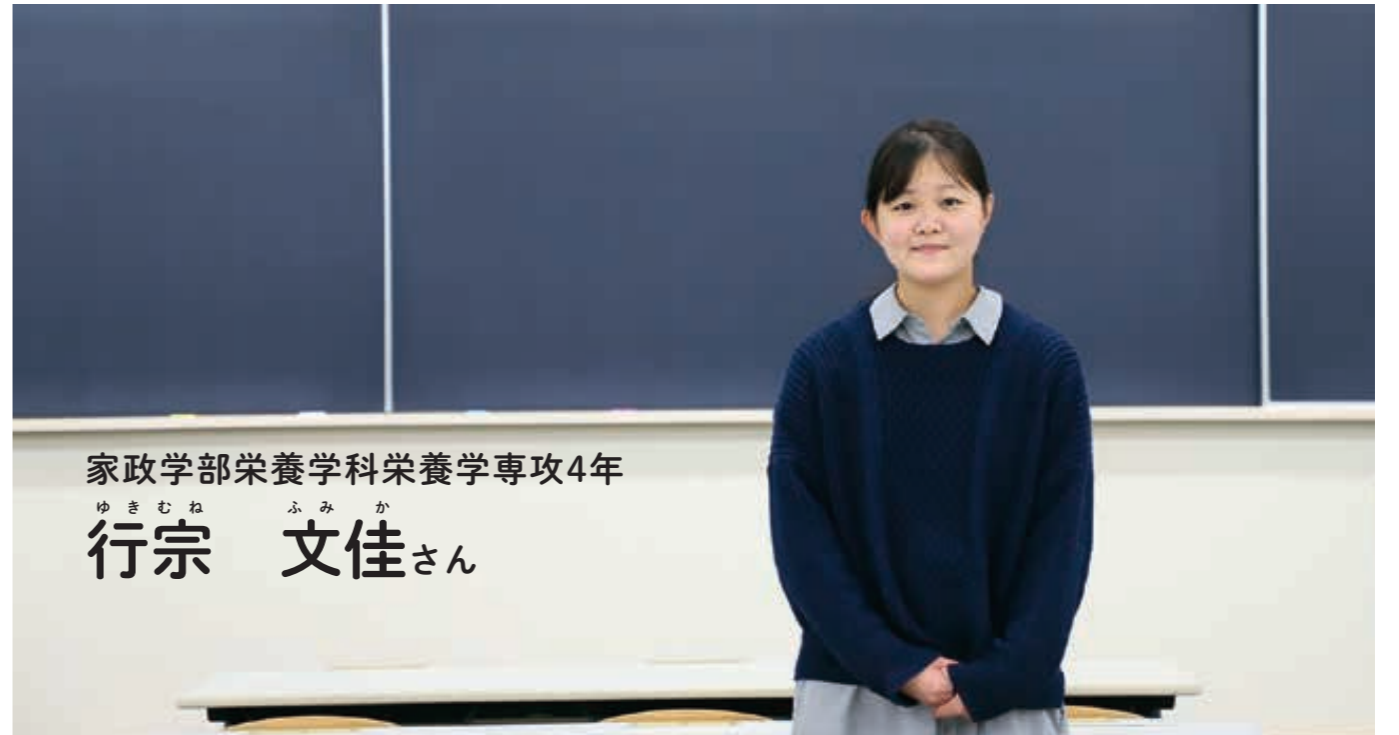
就職先では電柱の配電設計を担う技術職として働くことが決まっています。「まずは配電設計の道を極めていきたいです。将来的には再生可能エネルギーに関する仕事にも携わってみたい、そのためには設計のプロフェッショナルにならないといけません。当面の目標は一人前の技術者になることです」

そして少し遠い未来の10年後の自分を関根さんはどうイメージしているのでしょうか？「パリパリ働いていると思います。今後スマートシティ化が進めば、安定的で最適化された電力の供給が求められるます。仕事を通じて人びとが安心して暮らせる安全なまちづくりを実現させることが目標です」

関根さんに聞いてみました

- 好きな歌手: back number、YOASOBI
- 好きなパスタ: ジェノペーゼ
- フライドポテト: 細い派(カリカリ)
- 目玉焼きの味付け: 醤油
- 次に訪れたい旅行先: 白川郷

人を巻き込む力と徹底した企業研究 就職希望先トップ「味の素」内定



家政学部栄養学科栄養学専攻4年
行宗 文佳さん

食品業界の就職希望先ランキング（*1）1位「味の素」への就職が内定している家政学部栄養学科栄養学専攻4年生の行宗さん。栄養学科での実践的な学びや就職活動、将来の展望について聞きました。

大学生活4年間

社会で通用する人材になるには何が必要か？

栄養士と家庭科教諭の資格取得を希望して栄養学専攻に入学した行宗さんは「大学生活でやりたいことは全部できました。大満足です。あとは卒業さえできれば笑」と、この4年間を振り返ります。「食と健康の2つが自分の軸にあり、食品企業への就職を目指してきました。大学で勉強だけをしていても食品企業には入れないし、新卒は経験があるわけではないため栄養士の肩書だけで仕事はできない。となれば、とにかく色々なことに頑張っ取り組み、経験するしかない」と実際の社会で通用する人材になるには何が必要なのかを的確に捉え、それをさらに述べる行宗さん。大学1・2年生では栄養学科の商品開発プロジェクトに参加、大学1年の春休みには栄養&英語研修の短期留学で米国シアトルへ、学外では東京デイズニールランドのキャストやライブ動画配信のマネジメント業務を行う会社でのアルバイトに従事。さらに、就職対策として大学1年生から学内外を問わずキャリア支援プログラムに積極的に参加するなど、活気に満ちた4年間を送りました。

商品開発プロジェクト ボンパドウルでパン商品化

栄養学科の商品開発プロジェクト（応募制）には大学1・2年生の2年連続で参加しました。これは、企業から提示された新商品のテーマに対し、数名からなる各グループが企画書・プレゼンなどによるコンペを経て最終的に商品化を目指すプロジェクト。大学2年生の時には株式会社ボンパドウルとのパンの商品開発に挑み、行宗さんのグループが考案した「ムッシュコロネ」はボンパドウル赤羽店で販売されました。「ムッシュコロネ」は「コロネの中にホワイトクリームが入っています。ボンパドウルは担当者からは商品コンセプトがしっかり練られ、購入者層や食べるシーンを想像しやすいと好評でした。企画段階では40歳くらいの会社員が通勤時に購入してお昼に食べることをイメージして検討を重ねました」

商品開発プロジェクトの企画から商品化までのプロセスで行宗さんが学んだことは、「ひとりではできない」ということ。「わたしは思ったことを言うタイプで、良いよね、やっちゃんやうよというノリなんです。でも意見を言い出せない人もいるし、むしろそういう人の方がアイデアマンであることが多い。そういう人たちにどうやって意見を言うてもらおうかというも考えるようになりました。自分が最初に意見を言わないようにしたり、下級生の1年生にはグループLINEではなく個人LINEで意見を聞いたり、自分が発言するときは根拠をきちんと用意して話すなどの準備をするようにしました」

ボンパドウル店舗で働く社員さんや同じグループの下級生、コンペの過程で落選した元ライバルチームのメンバーなどから、あの手この手を使って意見を引き出し協働しやすいチームを作るスキル。これは、実践的な学びの場である商品開発プロジェクトだからこそ会得できたスキルと言えらるでしょう。



「味の素」への内定 若手社員も気付かない視点での 企業研究

もともと食品企業で商品や企画に携わりたいと考えていた行宗さん。就職先の「味の素」を志望した理由は「食と健康の2つがわたしの軸。ごはんを作って家族や友人においしいと言ってもらえれば食については満足できますが、そこに健康を掛け合わせるとより大勢の人に影響を与え貢献できると考えています。健康寿命を延ばしたいという自分の想いと企業ミッションが一致し、オンラインの会社である『味の素』を志望しました」

企業研究の一環で行宗さんはスーパーを歩き回りました。そんな中で注目したのは商品の棚割。「味の素」の青肉肉糸の素は加工食品の棚に配置されていましたが、他社の似た商品は精肉コーナーに配置されていました。この疑問をネットなどで調べたのですが解決できず、面接で「どうして両方のコーナーに陳列しないのでしょうか？」と聞いてみました。面接官は「それはうちの若手社員も気が付いていないポイントだよ。現場の部署に伝えるね」と喜んでおられました。

志望する企業の商品がスーパーのどこにどのくらい陳列されているのかをチェックする行動力、他社と比較して鋭く考察するリサーチ力、そして改善の糸口を面接官に聞いてみる表現力。面接官は入社後の行宗さんの働きぶりや企業への貢献を具体的にイメージすることができたのではないのでしょうか。（※ちなみに棚割の件は加工部門と精肉部門のバイヤーが異なることがその理由でした）

また採用試験で必ず聞かれる自己PRでは、前述の商品開発プロジェクトの経験をメインに取り上げ、自分ひとりでは成し遂げられないことも人を巻き込み目標を達成できる力をアピールしたと言います。さらに「既に他の食品企業から内定を買っていたので『味の素』の選考は余裕を持って臨めたこと、『味の素』の結果が出れば就



職活動を終えやすと面接の場で告げ、入社への意思が固いことを伝えられたことも優位になったかなと思います」

卒業後の将来

昆虫食や大豆ミートのたんぱく源に関心

将来は就職先の「味の素」では商品企画をやってみたいとも語る一方、「味の素」の強みであるアミノ酸に関連した仕事に携わってみたいと言います。「たんぱく源を補う試みにチャレンジしたいです。今後、タンパク質を豊富に含む栄養価の高い食品として広まるであろう昆虫食や大豆ミート（*2）などの食材に『味の素』のこれまでの研究や既存の食材が役立ち、応用できるのではないかと考えています」

少し先の10年後はどんな女性になっているのでしょうか。行宗さん自身は「やりたことは全部やるのがわたしのモットー。今の自分の延長線上にいろいろの将来の自分だと思っているので、10年後の仕事がどんなものであっても楽しんでいきたいと思います」と答えてくれました。健康食品への注目や需要がさらに高まる中、今後の行宗さんの社会での活躍が楽しみです。

先輩へメッセージ そんな「周り」を気にしなへん 大丈夫

本誌の前号90号では現在の大学1年生が思い描く10年後の姿を特集しました。その際、自分の意見を言えない、自信が持てないと



行宗さんに聞いてみました

好きな歌手: Mrs. GREEN APPLE, Official髭男dism 好きなパスタ: カルボナーラ
目玉焼きの味付け: 塩コショウ(父親ゆずり) フライドポテト: 細いカリカリ派
正月のお雑煮: 白みその丸餅 次に訪れたい旅行先: ドイツ(ビールが好きなので)

Introduction

河島さんは東京家政大学への内部推薦を見据えて東京家政大学附属女子高校へ入学、大学ではもともと志望していた服飾美術学科で4年間学びました。大学卒業後は玩具メーカーに就職し、1年半ほど企画営業に従事。この頃から、自分は将来どのように暮らしていきたいのかを考え巡らせるようになり、子育てと仕事を両立させたいとの思いを持ちました。しかしながら、当時勤めていた玩具メーカーで働く限りその思いを果たすのは現実的に不可能だろうとの思いに至り、自分の時間を比較的自由にコントロールできる独立を意識し始めたと言います。そして玩具メーカーを退職し、続いて東京家政大学進路支援センター（当時）で補助金業務に約3年間従事しながら、さらに自分と向き合い見つめ直す時間を過ごしました。

この間に、花や自然が好きなこと、生花店での短期アルバイト時代に受けたロスフラワー（廃棄予定の花）の衝撃、自分が持つクリエイティブな感性、これらが河島さんの中で融合し「花で仕事をしていきたい」という気持ちが固まっていきました。

そしてドライフラワーの装飾等を独学で習得、働きながら週末にドライフラワーのワークショップ開催を始めました。その後、雑誌社のEコマース部門に職場を移し、並行してフラワーサイクリストへの道を進む。2018年にクラウドファンディングで資金を集めパリ留学へ、2019年にはロスフラワーを用いた店舗デザインや装花装飾を行う株式会社RINを立ち上げました。コロナ禍に見舞われた2020年には花農家と消費者の架け橋としてオンラインショップ『フラワーサイクルマルシェ』を開設しています。

河島さんが代表を務める株式会社RINの洗練された世界観で創り上げられるドライフラワーの装飾に注目が集まり、さらにSDGsやサステナブルな暮らしへの意識の高まりもあいまって、現在では大手アパレルや有名百貨店からオファーが絶えない引張りだこの存在に。その一方、河島さんは自身の活躍ぶりを冷静にとらえ「観たい景色はまだ先にあります」とその輝く目は未来を見つめています。「花のロス減らし花のある生活を文化にする」というミッションを追い求め、目覚ましい活躍を見せる河島さんに仕事のやりがいや今後の展望など話を聞きました。



日常に花が満ちる景色を

Interview

仕事のやりがい
苦境の花農家に販路を

Q: フLOWERサイクリストという仕事のやりがいはどこにありますか？

A: わたしたちのミッションに共感していただける方が非常に多いというのが、この仕事のやりがいです。「花のある生活を文化にする」という企業ミッションに沿って、店舗やディスプレイの装飾等の事業をさせていただいていますが、今は嬉しいことにオファーをたくさん頂戴しています。ロスフラワーへの関心やサーキュラーエコノミー（循環

型経済）への取り組みについて、より多くの人に関わっていただけたことをありがたく思っています。

2020年にはコロナ禍で販路がなくなった花農家の生花を弊社が販売したところ、毎回完売するほど好評を博しています。苦境に立たされていた花農家のお役に立てたと思うと、この仕事をしていて良かったなと心の底から嬉しくなりました。弊社が目指す花のある生活を広めるためには、わたしたちだけの力では限界があります。多くの人を巻き込みながら、人とのつながりを今後も大事にしていきたいですね。

河島 春佳さん（家政学部服飾美術学科卒業）

株式会社RIN 代表 フLOWERサイクリスト

長野県生まれ。大自然の中で幼少期を過ごし自然を愛するようになる。東京家政大学服飾美術学科卒業。2014年頃から独学でドライフラワーづくりを学び、2017年生花店での短期アルバイト時に、廃棄になる花の多さにショックを受けたことから、FLOWERサイクリストとしての活動を始める。2018年クラウドファンディングで資金を集めパリへの花留学を実現し、2019年ロスフラワーを用いた店舗デザインや、装花装飾を行う株式会社RINを立ち上げる。2020年花農家と消費者の架け橋として開設したオンラインショップ『FLOWERサイクルマルシェ』は、農林水産省HPでも紹介。

FLOWERサイクリストとは、廃棄予定の花をドライフラワー作品にすることで新たな命を吹き込むクリエイターを意味します。今回は、FLOWERサイクリストという新しいフィールドをみずから開拓し、数々のメディアに取り上げられるなど、今注目の卒業生・河島春佳さんをご紹介します。

FLOWERサイクリストとは？

ロスフラワーを回収し、ドライフラワー作品にすることで、新たな命を吹き込むメンバーの名称。「サイクリスト」は環境用語である「アップサイクル」からの造語で、ものづくりの力で廃棄品にさらなる価値を与えることを意味します。

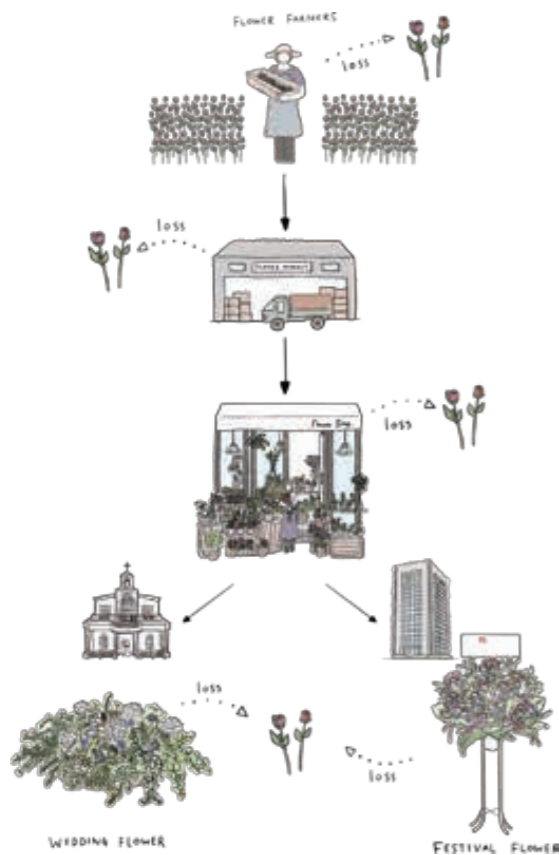
ロスフラワーとは？

日々、生花店や式場などでは短い役目を終えた花たちがまだ美しい間に捨てられてしまっています。新たな価値をつけるため、持続可能な「花き市場」を維持していくため、廃棄予定の花を「ロスフラワー」と名付けました。

株式会社 RIN



ロスフラワーを用いたブランディング事業やFLOWERサイクリストのコミュニティ運営などを展開しています。



Q…ユニクロや数々の百貨店の店舗装飾も手掛けるなど、自身の活躍をどう受け止めていますか？

A…大変ありがたい気持ちです。2020年12月から「UNIQLO TOKYO」(東京銀座)の一階では、ユニクロで販売している花のロスをドライフラワーにして、サンプルで廃棄予定だった服をサステナブルコースとして用いた装飾をしました。来客数が多い店舗ですので装飾を目にしていただく方々も必然的に多く、ご覧になった銀座エリアの企業からオファーをいただくなど、やはり有



名企業とのプロジェクトは影響力も大きいと感じています。

他方、一緒にプロジェクトに取り組む者として、それらの企業の名前を背負っている責任感や緊張感を持って臨んでいます。

Q…店舗やディスプレイの装飾を手掛ける際、仕事にどう向き合っていますか？

A…クライアントからいただいた仕事のコンセプトをわたしたちが創る装飾等で表現することが最優先です。クライアントのメッセージを世の中に伝えることができ、その上でわたしたちのミッションである「花のある生活を文化にする」という概念が調和しているかどうかを重要だと考えています。また、仕事のオファーをいただいた際には、弊社のスタッフや協力メンバー等にその仕事に取り組みたいかどうかを尋ね、彼らの意思を確認してからオファーをお受けするようになっています。

**クラウドファンディングで留学
パリのカフェに飛び込み営業**

Q…2018年のパリ留学について話を聞かせてください。

A…パリ留学がなければ今の自分はいないと断言できるくらい、インパクトがある経験でした。2018年当時それまで独学でドライフラワー作品制作の技術を習得し、ワークショップなども経験していました。しかし、大手のフラワーショップで働いてきましたというような確固たる実績を持っていないことがわたしの弱点でした。そこでパリ留学を決意しました。留学期間は1ヶ月と決めてヨーロッパで実務経験がある方を探し師事して学びました。

Q…滞在先のパリではどんな活動をしていたのですか？

A…現地でカフェなどに飛び込み営業をして、空いているスペースを利用してドライフラワーのワークショップなどを実施しました。もちろんハードルが高い挑戦ではありましたが、クラウドファンディングで支援者から資金を集めて留学しているので、



支援者の方々に現地での結果を見せなければなりませんでしたが、何もせずに日本に帰国することはできませんから、それはもう必死の毎日でした。

あわせて芸術の都パリを肌で感じることができたのも、非常に価値あることでした。わたしのような飛び込み営業が店に来たとき、日本ならば「店長に確認します」という対応が大半だと思えますが、パリでは「それならこのスペースを自由に使う」と店員さんがその場で即答してくれるんですね。パリは芸術に寛容な人が多く外国人のわたしにも快く接してくれるなど、芸術に関わる人たちがパリをめざす理由も納得がいきました。

花のある生活を文化に

幸福度が高いほど花を飾る

Q…「花のある生活を文化にする」というミッションについて詳しく聞かせてください。

A…花を日常に取り入れる人が広まる」というのをその定義にしています。花のある生活は、人に癒しを与え暮らしの豊かさにつながると考えています。花や自然がわたしたちにもたらしてくれる効果はさまざまありますが、その指標として「幸福度ランキング」(*)が高い国ほど花を飾る文化や習慣が浸透している」という一説があります。幸福度ランキングで上位を占める北欧の国々は冬が長く室内で過ごす機会が多いこともあって日常に花や自然を取り入れるのが上手です。花のある生活が幸福度と直接の相関関係にあるとは短絡的に言い切れませんが、一つの指標



として興味深く受け止めています。花を買う人が増え、買った花を手にした人が市中を歩き電車に乗り、街中や暮らした日常に花が満ちる景色をみることが目標です。その実現に向けて、今も奮闘している真っただ中です。

(*) 幸福度ランキング：国連の持続可能な開発ソリューションネットワーク(SDSN)が、毎年3月20日の「国際幸福デー」に合わせて発表しているランキングデータ。2021年日本は56位。

Q…読者の皆さんが花のある生活を気軽に取り入れられる方法はありませんか？

A…ひとつ提案するのなら、友達に会うときや誰かを訪問するときの手土産はお菓子が定番ですが、それをお花にかえてみるのはいかがでしょう。相手のイメージに合いそうかな、伝えたいメッセージを届けられるかなというように、生花店であれば考えながら花を選ぶのも濃厚な時間ですよ。また、相手が花を手にした時にどんな表情を見せてくれるのか想像するだけでも幸せを感じられるはずです。ぜひ花を大切な人に贈ってみてください！

後輩に伝えたいこと

寄り道した人ほど面白い

Q…最後に学生へのメッセージをお願いします。河島さんの快活な姿に憧れる後輩も多いと思いますが、将来が不安で自信が持てないといった悩み多き学生へ伝えたいことはありますか？

A…好きなことに臆することなく飛び込んで、小さな成功体験を積み重ねて欲しいです。そして、寄り道した人ほど面白い人生を歩いていると伝えたいですね。大学生だと同級生よりも遅れて卒業するのが特殊なことのように敬遠されがちですが、例えば、大学時代に休学して留学で海外に渡り色々なことを見聞きして帰国した人は将来的な伸び代が大きいと思うんです。周囲から遅れることを気にしてしまうかもしれませんが、歳を重ねると1年や2年は誤差の範囲内になりますから(笑)、自分の好きなことを正面から受け止めて、自分が見たいことをやってみたらいいよ！と伝えたいですね。

河島さんに聞いてみました

- フライドポテト：細くてカリカリ派
- あんこ：こしあん派
- 酢豚のピナップル：大好き(冷麺のりんごも好き)
- 幼少期のあだ名：かわはる
- ラッキーカラー：オレンジ(装飾作品にはあまり使いませんが…)
- 人生最期にこれが食べたい：お母さんの作る味噌汁

オンラインショップ
「フラワーサイクルマルシェ」

2020年4月花農家と消費者の架け橋として開設したオンラインショップ。農林水産省花いっぱいプロジェクトでも紹介されました。

フラワーサイクルマルシェで販売している商品を購入することで、花の廃棄問題に対し間接的に支援できる仕組みになっています。



学生の声 T.R.さん

“振り返りの大切さ気づき、日常生活でも実践”

この活動を通して学んだものは計画力と振り返りの大切さです。国際交流に興味があったため、これまでも何度かグローバル教育センターのイベントに参加していましたが、その時は参加者として当日楽しんで終わりになっていました。いざ、企画する側になると、本番に向けてより良いものを作るために何度もチームで話し合って分担や締め切りを決めるという工程が多く、非常に責任感とチームワークが必要な活動でした。この経験から、授業やセミナーには受け身にならず準備・計画してくれた方のことも考えて参加するようになり、能動的に学習できるようになりました。また、グローバルリーダーズでは、ひとつのイベントが終了することに必ず振り返りを行います。活動内容の手ごたえをはかるためのルーブリック評価を導入し、自己・他人、そしてイベント全体の感想と反省点を共有していました。これを行うことで、反省点は次回の活動で意識しながら改善し、共有することで他人からも意見をもらえるため、自分では意識していなかったことに気づくことができました。イベント当日だけではなく、計画している過程の振り返りも行うことで、回数を重ねることによりスムーズに活動できるようになりました。振り返りはグローバルリーダーズとしての活動だけでなく、日常生活でも自然と実践できるようになり、学習の質が上がっていると感じています。この1年間のグローバルリーダーズとしての活動で、国際交流に関わっていたため多文化の理解を深めることができました。また、計画性や責任感のある人間に成長できたと思っています。これは、参加者ではなく、企画側に携わったからこそ得られたことです。ここで得た価値ある経験を、今後も活かしていきたいと思えます。

異文化理解を深める
イベント企画・運営
グローバルリーダーズ

2年生と3年生の異なる学科の学生で構成されたグローバルリーダーズ。グローバル教育センターの顔として、東京家政大学の学生のグローバルマインドを育てるイベントや、センターを周知するための広報活動（Instagram など）を行っています。立ち上げ1年目の今年度は3回の留学生カフェ（オンライン交流会）、国際料理教室、昨年末に行われたイヤーエンドパーティーの企画・運営に携わりました。



育った文化も母国語も違う留学生の母国料理と一緒に作り味わうことで、食を通して異文化理解を深めるイベント「国際料理教室」がオンラインで復活しました。今回調理したメニューは、手羽先のコーラ煮（中国）、チンジャオロース（中国）、ソトクソトク（韓国）、ナシレマ（マレーシア）、ビーガン料理（アメリカ）の5種類！本学に在籍する留学生5名とグローバル教育センターの特任講師1名が調理をしているところをライブ配信し、参加者は自宅のキッチンで一緒に調理をするという形式で行いました。途中、配信機材のトラブルもありましたが、無事にすべての料理を完成させることができました。

自宅のキッチンで手羽先のコーラ煮を作ってくれた学生からは、「甘くて、上にかかったゴマの香りとコーラのソースの香りがマッチしていて、すごく美味しいです！」「ビーガンのカップケーキを試食した学生からは、「卵と牛乳が入っていないのに、普段食べている



国際料理教室がオンラインで復活！

ガトリーショコラを食べているみたいで美味しいですと感想をもらいました。このような形式での料理イベントは初めての試みでしたが、スタッフもテレビクルーになった気分が楽しみなながら準備することができました。また、対面でイベントを実施できる日が来ることを楽しみにしています。



今年度も
予告「海外で働こう！ウィーク」開催！
2022年2月3日(木)～5日(土)

本学の卒業生で、海外で働いている、もしくは働いた経験を持つ方のお話を伺い、交流するという「海外で働こう！ウィーク」を今年も実施します。どういう経緯から海外で働くことになったのか、どんな大学生活を送ったのか等を伺っていきます。将来、海外で働くことに興味のある方、外国に興味のある方は是非ご参加ください！今年も世界各国から様々な方が参加されますので、視野が広がることは間違いありません！

板橋キャンパス16号館2階
開室時間：平日 9時から17時
土曜日 9時から12時
問合せ：03-3961-1861

東京家政大学
グローバル教育センター

2つの学生団体
発足、アクティブに始動

学生の自主的な活動を促し、サポートしたいという思いで、今年度から2つの学生団体を発足させました。学生を対象としたイベントの企画・運営等を通じて異文化理解を深める「グローバルリーダーズ」、長期留学経験者の有志が集まり本学の留学の機運を高める「学生留学アドバイザー（TKU Global Room）」です。今回はこれまでの活動をご紹介します。

長期留学経験者の有志が経験を形に
学生留学アドバイザー(TKU Global Room)

コロナ禍で2年間全ての留学プログラムが中止になり、本学で長期留学を経験している学生は全員が今年度で卒業してしまいます。来年度は長期留学経験者がいなくなってしまうため、様々な経験を形に残そうと、5月から Instagram を立ち上げ、11月11日には留学イベント「生まれ！留学したいガール」を開催しました。



学生の声 F.Y.さん

“卒業まで短期間、さらに盛り上げたい”

主な活動は留学に関する情報発信やイベントの企画運営です。5月から活動を始めて念願の対面イベントを11月に開催しました。コロナ禍での留学に対する不安やモチベーションが上げにくい中、実際に留学した学生と交流することで1人でも多くの学生に留学の魅力を感じてほしいと思いイベントを企画しました。TKU Global Room の活動を通して、自分から発信し相手に伝える難しさを学びました。卒業まで残り少ないですが、本学の留学を活性化させるために TKU Global Room の活動をさらに盛り上げていきたいと思っています。

学生の声 H.H.さん

“どうすれば興味を持ってもらえるか”

この活動を通じて、経験から得たことを伝えることの大切さを学びました。現在コロナの影響で気軽に留学に行けない中、どうすれば興味を持ってもらえるか、どうすればコロナ禍でも学生たちが意欲を高められるかを考え、イベントを企画しました。今回のイベントを通して、直接話すことで、参加者の不安が取り除かれ、役に立つことが出来たと思います。また、参加者が将来行動するきっかけになってくれたら嬉しいです。

中高 中高大連携 家庭科授業 「省エネ教育プログラム実証」



中学生 エコ新聞を生徒
自ら作成

2017年より環境省「低炭素型の行動変容を促す情報発信（ナッジ）等による家庭等の自発的対策推進事業」の一環で実施された「省エネ教育プログラムの実証」について、東京家政大学・東京ガスと連携を取り、中高家庭科の授業の中で取り組んでいます。

この取り組みは、家庭での省エネルギー行動を促進し、その効果を測定することを通じて、環境問題の改善及び今後の環境教育の在り方を検討することを目的としています。

具体的には、家庭科の授業で環境について学ぶ中で、電気・ガス・水道のメーターの数値を記録しました。また、エコ・クッキング実習や節電実習で実際に省エネ行動にチャレンジしました。授業の最後には、地球環境に関する新聞作成・プレゼン発表を行いました。

座学だけでなく、実践的、体験的に学ぶことで、家庭・地域での実践の基礎となり、持続可能な社会を目指すために、地球人として今すべきこと、できることを考える機会を持つことができました。また、意識しながら実践につなげる重要性を理解することができました。



上 中学生 節電実験で計測中
下 高校生 エコクッキングで
廃棄量測定



東京家政大学 附属女子中学校・ 高等学校

令和4年 年頭所感

中学 中学校入試(予定)

区分	募集人員	試験日	試験科目
第1回	特進(E)class	2/1(火) 午前	2科目(国語・算数・英語から選択) ※英語のみ面接あり
	進学(i)class		
第2回 ※	特進(E)class	2/1(火) 午後	①2科目(国語・算数) ②4科目(国語・算数・社会・理科) ③適性検査型(I・II) ①~③から1つ選択
	進学(i)class		
第3回	特進(E)class	2/2(水) 午後	①2科目(国語・算数) ②4科目(国語・算数・社会・理科) ①~②から1つ選択
	進学(i)class		
第4回	特進(E)class	2/3(木) 午後	適性検査型(I・II)
	進学(i)class		
第5回	特進(E)class	2/4(金) 午前	2科目(国語・算数)
	進学(i)class		
第6回	特進(E)class	2/10(木) 午前	算数(1科目)
	進学(i)class		

※第2回は特別奨学生入試(一般合格含む)

高校 高等学校入試(予定)

区分	募集人員	試験日	試験科目
推薦入試	特進(E)class	A推薦	適性検査(国・数・英)3科60分
	特進(E)class		
	進学(i)class	A推薦	
	進学(i)class	B推薦	
一般入試	特進(E)class	単願優遇・併願優遇含む	2/10・13(木・日)
	進学(i)class		

挑戦〈Challenge!〉量の確保、そして質の向上へ!

挑戦!があつてこそ、世の中は常に進歩して参ります。逆に、停滞したり戻ったりしたら...世の中は悲惨な状況に立ち至ることでしょう。いつの時代にも、常に前向きに、前向きに、前向きに、唯ひたすらに【愛情・勤勉・聡明の生活信条】を胸に、【建学の精神 自主自律】を実現すること、これこそが東京家政大学140年の歴史と伝統に基づく本学の使命であり、今年も力強く実践して参りたく願っております。

さて、令和4年の年頭所感ですが、【令和4年 東京家政大学附属女子中学校・高等学校の年度目標】挑戦〈Challenge!〉量の確保、そして質の向上へ!といったことです。具体的には次の事柄を目指して参ります。

- ・子どもたち：学力や人間力の基盤としての学修・課外活動などの時間・内容における確実な実施展開から、そのさらなる質的向上を目指すこと...学校での授業や生活を核にした各位の学修の量と質の向上を目指します。
- ・教職員スタッフ：仕事・教育内容の確実な実施展開から、そのさらなる子どもたちの成長・発達を確実に支援し、量・質共に充実した向上を目指します。
- ・保護者様方：是非、本学の建学の精神や生活信条にご理解ご賛同を賜り、教職員スタッフと保護者様方による緊密で一体化した心豊かで充実した教育環境を構築し、子どもたちを中心に学校教育と家庭教育の前向きで力強い協働をより強固なものとして頂くことを願っております。

本年も様々な予期せぬ出来事があるかと存じますが、こうした時こそ、皆々様と心をつなぐ力強い協働をより強固に、挑戦〈Challenge!〉量の確保、そして質の向上へ!と何卒よろしく願い申し上げます。



統括責任者 兼 高等学校校長
おおさわ つとむ
大澤 力

学ぶとは、教育とは



中学校長
たかまさ あやこ
賞雅 枝子

皆様あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

グローバルな視点をもって人々の連携協力が必要であると、切実に感じる2021年でした。脱炭素の動きや新型コロナ感染症においては、国境を超えた連携協力が不可欠です。しかし、あらゆる手段を使って簡単に移動できる、その利便さは、急速な感染拡大をもたらしたという過言ではないでしょう。

一方、グローバルという言葉もあり、世界は広いけれども、我が国、我が地方のことを深く知ることやそれを継承し伝えることが重要であるともいわれます。アイデンティティーを失うことなく、人間として地域的、社会的な基盤を大切にこそ、真に豊かな地球環境を維持できることでしょうか。

家政探検と称して、中学1年生は板橋校舎の広い敷地をくまなく歩き、「良いこと探し」をしました。また東京家政大学の学科調べも緑苑祭で発表しました。自分の将来を語り、今の自分を知り、希望を描くヴァンサンカンプランという取り組みもあります。家政の中学校教育は幅広く学び、探究し続ける態度を育て、そして一人ひとりの夢を育てたいと思っています。



中高緑苑祭にて 中学華道部

令和3年 秋の叙勲

もり りゅうじ 森 隆二名誉教授 瑞宝小綬章を受章

2011年3月31日付で定年退職された森 隆二名誉教授が、永年の教育研究功勞により、2021年秋の叙勲において瑞宝小綬章を受章されました。

森 隆二先生は、1967年4月に本学へ入職、2011年3月に退職されるまでの44年間、環境地質学、環境地質学実験、地球科学等を担当されました。また、教務部教務課長や、環境情報学科長を勤め、教育体制の充実と発展のためにも積極的に活動されました。2011年4月には東京家政大学名誉教授になられています。



森 隆二名誉教授

森先生は地球科学の学問分野である地質学について研究し、実地調査を重んじた活動に力を入れておられました。1971年には本学園90周年記念授業の一環として学生とフィリピンサンゴ礁の調査と地質学研究を行うなど、精力的な調査活動を行われました。

新型コロナウイルス感染症対策により叙勲伝達式は行われなかったため、本学にて表彰状と勲章を代理出席の森夫人へお渡ししました。

なお、森教授は12月23日にご逝去されました。心よりお悔やみ申し上げます。



2021年12月7日 表彰状と勲章を代理出席の夫人へお渡し

家政学部造形表現学科

十条駅開業111周年記念 横断幕をデザイン



1910(明治43)年に開業した十条駅は2021年11月1日に111周年を迎え、記念グッズの販売や写真展など、さまざまな記念企画を実施しました。そうした中で十条駅からの依頼により、東京家政大学の学生が記念の横断幕をデザインすることが決定。造形表現学科の学生4名が、同学科の有馬十三郎教授による指導のもと、それぞれデザインを制作しました。4種類の横断幕は、10月23



日(土)～11月23日(火)まで駅構内に掲示されました。また、各横断幕の近くには、大学・学科名とデザイン制作者のイニシャルが記載されたA4サイズのプレートが設置されました。

参加学生：家政学部造形表現学科 4名

掲示期間：2021年10月23日(土)～11月23日(火)

指導：家政学部造形表現学科 教授 有馬十三郎

ヒューマンライフ支援機構 女性未来研究所 オンライン講演会

「わたしの生き方 わたしたちの未来」 視聴レポート

2021年11月18日、東京家政大学ヒューマンライフ支援機構女性未来研究所は「わたしの生き方 わたしたちの未来」と題した講演会を開催、これからの未来を生きていくためのヒントを人生の先輩たちが語りました。



“好きで選ぶことを恐れず”

樋口 恵子 (東京家政大学女性未来研究所名誉所長)

新聞記者を志望していた樋口名誉所長は大学の学科選択で就職に失敗することへの迷いから実家と縁があった学者にならぬ美術史学科を選択しましたが、真に美術が好きで学んでいる周囲との熱量の差を自覚することに。

一方、当時履修していた新聞研究の授業には目を輝かせて臨んでいる自分に気づき、のちにジャーナリズムの研究、評論家への道を歩みました。

進路に迷った時には「得で選ぶよりも好きで選ぶ」を優先すべきと自身のターニングポイントを振り返りました。好きを大事に、その潔いメッセージは何かに迷い悩む参加者にとって視界がパッと開くフレッシュな言葉だったのではないのでしょうか。



“偶然の必然を楽しみ、掛け算で”

高祖 常子 (第9回渡邊辰五郎奨励賞受賞・認定NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク 理事)

東京家政大学短期大学部で保育を学んでいた高祖さんは、自身のキャリアプランを考え保育園で働く前に「働きながら子育てをしている親の状況を知りたい」と思い出版業界を目指しました。その後、出産を機に育児誌の編集に携わり、スウェーデンでの取材で虐待や体罰をしない子育てに共感、以後それを広める活動に注力してきました。署名活動などの結果、虐待防止に関する法整備を推し進めることに成功しました。

自分のこれまでの活動と興味があることを掛け算して、さらに新しいことに挑戦し続ける姿はとてもパワフル、常に前進する勇気を参加者へ与えてくれたに違いありません。



“自立した人になる未来”

岩瀬 香奈子 (第3回渡邊辰五郎奨励賞受賞・株式会社アルーシャ 代表取締役)



すべての人生がOK!という印象的なフレーズから始まった岩瀬さんの講演。

高校時代から自分がやりたいことが見つからずにいましたが、東京家政大学文学部(当時)時代はボランティアやホームステイなどを通じてアクティブに過ごしました。

卒業後のキャリアは人材派遣会社での営業職から始まり、外資系金融ソフトウェア会社への転職を経てイギリスへ留学、日本へ帰国後に起業しました。

起業直後に難民支援者と出会ったのをきっかけに、難民就労のためのネイルサロンを立ち上げるなど精力的な支援を行っています。この活動を通して、自立し環境の変化へ柔軟に対応することが大事だと実感したと言います。

インターネットで検索すればすぐに正解を見つけられることに慣れている今、人生に正解も不正解もなく、答え探しは自分でしか決められないのだと生きる根本を見つめ直す機会を与えてくれた講演でした。

3人の登壇者が共通して講演で述べていたのは「人との繋がり」で、自分の思いと行動で人生を切り拓いてきました。本学の建学の精神「自主自律」ができる生き方に向けて、心に留めておきたいヒントをたくさん得ることができた講演会でした。

Tokyo Kasei Press Vol.91 学校法人渡辺学園 広報誌なでしこ 2022年1月発行

Tokyo Kasei Press 広報誌なでしこ

創設時の校章に「愛を意味し、母性愛と教育愛を象徴している」撫子(なでしこ)の花がかたどられています。“平成”から“令和”になった2019年に広報誌をリニューアルし、『なでしこ』の通称名を付けました。これからの時代を“しなやかに凛と生きる”女性として社会で活躍できるよう、願いを込めて多くの情報を発信していきます。

新型コロナウイルスの影響により、本誌掲載の行事等の開催が変更・中止になる場合があります。お問い合わせは学園運営室(03-3961-5690)までご連絡ください。



なでしこ

@百周年記念館(板橋キャンパス)

昨年秋の終わりに植え替えられた2代目。ピリッと寒い季節にもめげず、鮮やかな発色で元気いっぱい。

■学園運営室

門脇亜希子、川島 直子、古角花亜菜、坂本 理恵

■広報・広告推進提言グループ

安孫子奈緒、枝 隼也、小野 晴香、熊倉 直子
古渡由香里、齋藤 麻衣、原田 陽子、矢野 穂

■発行人

菅谷 定彦(学校法人渡辺学園 理事長)

■編集責任者

岩井 絹江(学園運営室 室長)

■編集・発行

学校法人 渡辺学園 学園運営室
〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1
電話：03-3961-5690

■制作・印刷

株式会社弘文社

■表紙デザイン

坂本 理恵

■広報誌なでしこ バックナンバー



次号92号は、2022年4月発行の予定です。
掲載希望の記事がありましたら、学園運営室にご連絡ください。

買おうとして通販サイトのお気に入り登録していた台所道具、幸運なことにその大半が購入手続きへ進まずに済んでいる。というのも、どこかで見た記憶があるなど台所の戸棚の扉をあちこち開けて奥をのぞくと、何年そこに鎮座していましたかと聞きたいくらい堂々と住みついている道具たちを見つけるからだ。亡くなった祖母が生前に使っていたもので、道具を発見するたび、婆さんでかしたと感嘆する。

時計の針が急いでグルグル回る外の世界から家に帰り、祖母のすり鉢で白和えを作る。こし器で焼き菓子の粉をふる。効率や合理性を追い求めなくていい時間をこの手に取り戻すことができる。生活するとは何たるか、祖母が一生懸命に毎日を営んでいたことを知る。時を経てその尊さに気づく。

本号にご協力いただきました全ての皆さまに感謝申し上げます (N.K)

明けましておめでとうございます。

『お札の顔も「私学人」が並ぶ』という記事を読んだ。なるほど令和6年に導入される新紙幣は渋沢栄一、津田梅子、北里柴三郎。私学に関係深い人々である。

日本での私学の貢献度が高いと改めて感じた。新札にお目にかかるのは2年後である。さてどんな世の中になっているのであろうか。(A.K)

明けましておめでとうございます。令和4年お正月、どんな年を願って迎えられましたか。

1月は睦月(むつき)と呼ばれその由来はお正月に家族や親戚と和やかに親しく過ごす、睦みの月の意。91号の発行頃は「寒の入り」で最も寒さが厳しい時ですが寒が明ければ「立春」。風はまだまだ冷たくても季節は春に向かって動いています。学内や通勤時に目にする草木は新春の太陽を浴びて芽吹きはじめました。

日本には「春夏秋冬」の四季があり、自然と寄り添いながら移りゆく季節を感じて暮らせる幸せを感じます。これからの季節、私の楽しみは花作り、元気に育てと願いながら小さな庭に種を蒔き、水をやり、双葉が出てきたときの小さな幸せは何にも代えがたいもので、特に昨日まで咲いていなかった花が咲いているのを見つけたときは、自然と顔がほころびます。

たのしみは 朝おきいでて

昨日まで 無かりし花の 咲ける見る時 橘 曙覧

日経新聞【春秋】欄の季節折々のコメントが好きで切り抜き保管しています。過日の春秋に「年末年始の各地の行事には豊かで安らかな日々への祈りが、古くからの所作にこもっている」とありました。新しい年、令和4年が心豊かに安らかに過ごせる年であってほしいと心から願っています。

91号発行にご協力くださった皆様に御礼申し上げます。(K.I)

体験入学
要申込み

東京家政大学・東京家政大学短期大学部

高校1年生・2年生向け

体験入学で2時限受講できます

大学の授業を体験! /

60分授業を2時限受講できます。大学12学科と短大2科から、興味や関心がある学科の授業を選んでください。

In 板橋キャンパス

2022年 3月23日(水)

(1時限目)9:30~10:30 (2時限目)10:45~11:45

- ・家政学部(児童学科、児童教育学科、栄養学科*、服飾美術学科、環境教育学科、造形表現学科)
- ・人文学部(英語コミュニケーション学科、心理カウンセリング学科、教育福祉学科)
- ・短期大学部(保育科、栄養科)



In 狭山キャンパス

2022年 3月22日(火)

(1時限目)9:30~10:30 (2時限目)10:45~11:45

- ・健康科学部(看護学科、リハビリテーション学科) ・子ども学部(子ども支援学科)



2022年2月上旬に授業内容や申込方法等をHP上に公開する予定です

※2022年4月「栄養学部(栄養学科・管理栄養学科)」開設予定

【お問い合わせ】 アドミッションセンター TEL.03-3961-5228(直通) 平日10~16時/土曜日 9~12時

東京家政大学附属みどりヶ丘幼稚園

入園をご希望の皆さまへ(1号認定)

平成31年度より東京家政大学附属みどりヶ丘幼稚園は幼稚園型認定こども園となりました。幼稚園をご希望の方(1号認定)は幼稚園にて入園審査を受験いただけます。



令和4年度 入園(1号認定児)

二次募集

3歳児(3年保育)	平成30年4月2日~ 平成31年4月1日生まれ	若干名
4歳児(2年保育)	平成29年4月2日~ 平成30年4月1日生まれ	若干名
5歳児(1年保育)	平成28年4月2日~ 平成29年4月1日生まれ	若干名

保育時間

午前9時~午後2時(保育終了後の預かり保育「もも」があります。年齢・季節により変更する場合があります。)

- ・募集人員は応募状況によって変わりますので、ご連絡いただく時期によっては空きがない場合もございます。入園をご希望される方は早めにご連絡をお願いいたします。
- ・就労等の理由で保育を必要とされる方(2号認定)は、区への申し込みとなります。

入園をご希望の方は、幼稚園までご連絡をお願いいたします

【お問い合わせ】 東京家政大学附属みどりヶ丘幼稚園 TEL.03-3961-9997(受付時間 9:30~17:00)

理事長コラム “世界を生きる”

学校法人渡辺学園理事長 菅谷定彦

日経ニューヨーク特派員時代⑩

ニューヨークの日本人(中②)

日本経済新聞ニューヨーク特派員1年目の1971年(昭和46年)は、わが国の繊維、自動車、家電など1ドル360円の円安下での対米輸出激増に反発するニクソン米政権のジャパン・パッシング(日本無視)、ジャパン・パッシング(日本たたき)がピークに達した年だった。7月のキッシンジャー米大統領補佐官の極秘訪中とニクソン大統領の中国訪問発表はいずれもわが国への事前通告無しに行われた。

そして8月15日、日本の太平洋戦争敗戦の記念日に金・ドル交換停止、輸入課徴金10%の創設などがわが国を最大の標的とする、ニクソンショックが発表された。これに先立ち、両国の懸案事項である沖縄返還は6月17日、日米間で調印。最大の経済摩擦だった繊維の対米輸出問題は7月1日、わが国の輸出自主規制で決着していた。しかしニクソン大統領にしてみれば、沖縄と繊維はパーターで、円安・ドル高の是正などによるより広範で劇的な貿易収支改善等が自らの政権基盤強化にも不可欠と判断したのである。

8月15日は日曜日で夏休みのピーク。ニューヨーク、ワシントンの日本特派員は過半が休暇中。日経ニューヨークの吉村久夫特派員(のち日経BPP社長)と私は吉村さんの

知り合いの銀行マン住田氏が三和銀行ニューヨーク支店次長に就任したお祝いのゴルフ会のため、私の車で三和銀行調査役を含む4人でニュージャージー州のリバベールゴルフクラブでのプレーに出かけていた。

日経ワシントンの吉田豊明特派員から吉村夫人にニクソン重大発表の知らせが何度もあったが、吉村夫人は行く先を知らされておらず、携帯電話も無い時代、夕方、帰りのパリのセードパークウェイは大渋滞でノロノロ運転。眠気覚ましにラジオをつけたところニクソン大統領の演説が流れてきた。4人共その内容の重大性を理解したが車は一向に進まな

い。夕食会を準備していただいた吉村夫人の待つクイーンズの吉村宅に到着したのは午後8時ごろ。この問題の主役である神末佳明、吉田ワシントン両特派員と連絡を取りながら情報収集し、なんとか夕刊、翌日の朝刊其他社を上回る内容の紙面を作りあげた。

ニクソンショックは同年12月、ワシントンのスミソニアン博物館で開かれた10ヶ国蔵相会議で、1ドル308円など米ドルの全面切り下げで結着した。ニューヨークから私と9月初めに吉村さんとの交代で赴任した武田昌三特派員(のち日経BPP社常務取締役)こ



ニクソンショックの当日のゴルフ
右から吉村特派員、菅谷、住田三和銀行NY支店次長(1971夏)



クイーンズ武田邸で右から武田氏、武田夫人、菅谷、棚橋NY特派員(1973夏)

れも9月に吉田特派員と交代してワシントンに赴任した杉田亮毅特派員(のち日経社長)と東京から来た大輝精一記者(のち日経専務取締役)でチームを組み丸2日間ほぼ徹夜の取材だった。会議は完全に秘密状態。トイレ休憩でも全員ノーコメント。取材競争は米ドルの世界主要通貨に対する全面切り下げを発表した議長のコナリー米財務長官のレクチャーを、いかに素早く博物館内に並び公衆電話に駆けつけるとなり、甲陽学院高校時代の正式計測で百メートル11秒9だった私の健脚が大いに役立った。

武田・菅谷のニューヨークコンビが活躍したのが、71年10月の国連中国代表権問題である。49年10月、中華人民共和国が成立、国民政府(台湾政府)が中国本土の実効支配を失って以来の課題で、71年総会での決着が必至の状況だった。このため日本の新聞社も国際畑のエースをニューヨークに配置した。朝日は松山幸雄(のち取締役論説主幹)、毎日には野勇夫(同取締役主筆)、読売は早大第一政

経の先輩で仲の良かった山本和郎(同編集総務を経て広島テレビ社長)など。

日経も武田さんが社会部2年のあと外報部10年、2年後輩の私も工業部で三菱クワイアラー提携など国際的なスクープで活躍する

前は外報部6年で共に英語力には自信がある。加えて武田さんとは10日に一度は九段の靖国神社側にあった武田さん兄の修一(住友信託銀行勤務、のち実家である岡山の廣榮堂本店社長、美代子夫妻の住まいに押しかけ、

食事に預かった気心の知れた仲間。国連代表部の中川融、小木曾本雄両大使やスタップとの情報交換、主要国の演説、プレスリリースを手分けして精読、武田・菅谷特派員連名で、連日朝刊・夕刊トップ記事を書き続けた。最大のポイントは米国が提案した逆重要事項指定方式(台湾追放を総会の3分の2多数で決める)の賛否と判断、取材を進めた。これが過半数で否決されれば台湾追放、中国の代表権回復が総会の多数を占めるのは確実と見たためだ。

25日の代表権問題投票3日前の22日付で武田、菅谷2人で徹夜で票読みした結果を賛成55、反対58カ国を報道。25日の投票は賛成55、反対59とほぼ的中した。日本の新聞では一番正確な読みでこの流れで総会にアルバニア案として提出された中国の代表権回復案に賛成76カ国、反対が米国、日本など35ヶ国となり、台湾の追放が決まった。総会終了後わがアパートから歩いて5分、吉村宅を継いだ武田宅で充穂夫人の手料理を味わいながら何度も乾杯した濃いウイスキーの味は忘れられない美味だった。

※次号は日経ニューヨーク特派員時代⑪「ニューヨークの日本人(中③)」です。